

平成15年度財団法人東洋文庫事業報告書

財団法人 東洋文庫
理事長 斯波義信

平成16年3月31日現在までに行われた財団法人東洋文庫事業報告の概要は下記の通りです。

事業項目

- I 調査研究
- II 資料収集・整理
- III 研究資料出版
- IV 普及活動
- V 学術情報提供

I. 調査研究

資料収集と研究事業は、以下のように超域アジア研究とアジア諸地域研究に区分し、各研究はプロジェクト研究あるいは基礎研究として実施される。研究体制を一新するに際し、新規研究員の追加委嘱等をはかり、研究活動の活性化と充実をめざす。これらの研究を基礎に、日本のアジア研究の国際化をさらに促進すべく、その成果を出版（欧文等を含む）し、国内外に配布・紹介する。また、本事業によって達成された研究成果については、講演会・研究会などを通じて、あるいは電子メディア等を用いて広く一般に公開する。

A. 超域アジア研究部門

(1) 「現代中国の総合的研究」（超域アジア研究部門、現代中国研究班）

1949年の革命以後、国内で政治、経済、社会の激変を経験し、東アジアから世界にまで政治・経済的な影響力をもちつつある隣邦中国の全容を、歴史・文化の流れを含めて総合的に捉える研究体制を構築する。その基礎資料の収集は東洋文庫の蓄積を基点にしながら、学際的研究・公開利用の観点から拡充と再編をはかる。

〔研究実施概要〕

「現代中国班」は、統一テーマを〈国際社会における現代中国の変容：持続と変革〉と定めた上、①《政治と外交》②《経済》③《国際関係・文化》の3グループを編成した。①4名②2名③4名を東洋文庫兼任研究員に委嘱、定例の研究会を主軸にしながら研究発表、国内・海外の調査、資料の収集をおこなった。業績の出版では衛藤瀋吉著*Political History of Modern China* [東洋文庫欧文論叢No. 4] (304ページ)を刊行、ほかに『中国学術雑誌全文データベース』歴史編・政治編のアクセス権を確保、さらに(財)日本国際問題研究所旧蔵の中国現代関係の新聞類を中心とする大量の資料を受贈し、また台北中央研究院、上海図書館、復旦大学、華東師範大学を歴訪して、デジタル化推進上の協力および資料・人員の交換・交流の協約をした。

① 研究会

a) 政治（代表・毛里和子）

- ・日 時 平成15年12月5日（金）
- ・テーマ 「中国民主諸党派論」
- ・報告者 高橋祐三（東海大学助教授・研究協力者）
- ・日 時 平成16年2月10日（火）
- ・テーマ 「アジアの民主化を巡る問題－要因・アクター・視点」
- ・報告者 岩崎育夫（拓殖大学教授教授・研究協力者）

b) 経済（代表・中兼和津次）

- ・日 時 平成15年12月20日（土）
- ・テーマ 「中国化学工業の源流－永利化工・天源電化・満州化学・満州電化」
- ・報告者 田嶋俊雄（東京大学教授・研究協力者）

c) 国際関係・文化（代表・平野健一郎）

- ・日 時 平成15年10月25日（土）
- ・テーマ 「中国抗日戦略とアメリカ対日経済制裁1937-41」

- 報告者 土田哲夫（中央大学教授・研究協力者）
- ・日 時 平成15年12月7日（日）
- テーマ 「韓国における中国研究の最近の状況について」
- 報告者 張寅性（ソウル国立大学教授・講演者）
- ・日 時 平成16年2月7日（土）
- テーマ 「日中戦争期上海の難民救済問題と社会統合」
- 報告者 小浜正子（鳴門教育大学助教授・研究協力者）
- ・日 時 平成16年2月14日（土）
- 座談会 「東アジアにおける歴史共同研究の現状と課題」

② その他

中国学術雑誌全文データベース（歴史分野、政治分野）のインターネットアクセス権購入を機会に、東洋文庫収集の逐次刊行物のデータベース化について検討した。

（2）「現代イスラームの超域的研究—議会主義の展開と立憲体制に関する比較研究—」

（超域アジア研究部門、現代イスラーム研究班）

本プロジェクトでは、これまでほとんど用いられることのなかった中東諸国の議会文書を分析し、それぞれの地域（国家）に誕生した議会主義と立憲体制の実態を比較・検討することを通じて、中東・イスラーム地域における諸国民国家の歴史的役割と今日的意義を総合的に考察する。

〔研究実施概要〕

「現代イスラームの超域的研究」の一環として、「議会主義の展開と立憲体制に関する比較研究」が開始された。1年度目は、これまでほとんど利用されることのなかったアラビア語、ペルシア語、トルコ語の議会文書資料を分析するための基礎作業が行われた。アラブ班は、専門家をエジプトから招聘して两大戦期の議会議事録の性格を検討しイラン班は国民議会議事録をデータベース化するとともに、その議題の索引づくりを進めた。またトルコ班もオスマン帝国議会議事録のデータベース化を進めるとともに、立憲思想のトルコへの導入と浸透についての研究を推進した。議会主義と立憲体制に関する研究が、現代中東諸国の「民主主義政治」のありかたを考えるうえでも、きわめて重要な課題であることがしだいに明らかになりつつある。

① 国際ワークショップ

- 日 時 平成16年3月25日（土）、26日（日）、日本中東学会主催、東洋文庫協賛
- テーマ 「イスラームの変容する知と権威」
- セッション 1) Sufism and Tariqa Movements in the Era of Islamic Resurgence.
2) Site and Networks of Religious Authorities.
3) New Thinkers in Islam.

② 講演会

- 日 時 平成16年2月13日
- 講演者 アッザ・ワフビー（エジプト・アラブ共和国議会担当省副大臣）
- テーマ 「近代エジプト議会制度史—1940年代および50年代初頭を中心にして」

③ 研究会

- ・日 時 平成16年3月7日（日）、8日（月）現代イスラーム研究班合同研究会

報告 (1)八尾師誠「平成15年度イラン班の活動実績について」
(2)長沢栄治「平成15年度アラブ班の活動実績について」
(3)粕谷元「平成15年度トルコ班の活動実績について」
(4)佐々木揚（佐賀大学教授・研究協力者）
「中国における議会制度・立憲主義の受容をめぐる問題点」

a) アラブ（代表・長沢栄治）

・日時 平成15年12月13日（土）
報告 (1)長沢栄治「エジプト近現代史研究資料とデータベース形成の試み」
(2)池田美佐子「カイロ図書館の史料所蔵状況—現地調査報告」

b) イラン（代表・八尾師誠）

・日時 平成15年12月6日（土）
報告 (1)森島聡「ロガトナー・メイェ・デホダー国費出版とイランの言語政策について」
(2)坂梨祥「イラン的政治文化論の今日的展開—『イラン的政治発展』の模索」
(3)橋詰若菜「20世紀初頭イランにおける立憲制受容に関する一考察
—イスラーム法学との関係を中心に」（各研究協力者）
総括：八尾師誠、黒田卓（各研究員）

c) トルコ（代表・粕谷元）

・日時 平成16年1月31日（土）
報告者 佐々木紳（東京大学院生・研究協力者）
テーマ 「新オスマン人とイスラーム—立憲主義の正当化の論理」

④ その他

イラン議会文書に引き続き、アラブ議会文書のデータベース化を進めた。また、海外出張により、エジプト議会議事録および官報の所蔵調査（池田美佐子）、トルコ議会関係資料の調査および収集（粕谷元）、イランにおける議会主義の展開と立憲体制関係資料調査および収集（八尾師誠）、中国におけるイスラーム研究の現状調査（佐藤次高、小羽田誠治）を行った。

B. アジア諸地域研究

(3) 前近代中国プロジェクト研究

① 「前近代中国の法と社会」（東アジア研究部門、前近代中国研究班）

中国には、条文化された律、詔令、条例等の各種の法が残されており、それらに基づいた中国法制史研究の豊富な業績は、各時代の法の概要を明らかにしてきた。しかし、社会の本質をより鮮明に示す戸婚・田土・錢穀などを扱う、いわば「民事」に関する法の研究は不十分である。従来、多くの個別研究があるが、時代を通じて分析する事が欠けていた面もある。本プロジェクトでは共同研究を行い、「民事」に関わる各時代の法の特徴、変遷、地方性を明らかにする。

[研究実施概要]

- a) 前近代中国の「民事」的な法・規範に関する研究成果作成準備のための研究会を開催した。
- b) 「民事」的な法・規範に関する文献目録作成に着手した。
- c) 国内外の宋～清代の条例等の調査・収集と条例集の「内容索引」作成を検討した。

○基礎研究

アジア諸地域の歴史・文化の特徴を解明するために、以下のような基礎研究を実施した。

<東アジア研究部門>

(3) 前近代中国研究班

② 「宋史食貨志研究」

宋代の経済につき王朝の官僚機構が記した克明な「資料」にもとづいて、経済政策・財政運営の全体像を解明する。「資料」の中心をなすものは『宋史食貨志』であり、その総合的研究の成果として訳註書を完成し、また、その資料源である『宋会要輯稿』語彙索引編作成事業の完結を期す。

[研究実施概要]

- a) 本年度は隔週の研究会のもとに、『宋史食貨志訳註（五）』（塩・茶法の専売制）を刊行した。さらに、『宋史食貨志訳註（六）』収載の酒・香・商税・市易など講読研究会を重ねた。
- b) 昨年度につづき『宋会要輯稿』食貨の部の語彙「地名編」カード30,400枚、「一般語彙編」カード約78,000枚の入力を終了した。

③ 「中国古代地域史研究 — 『水経注』の分析から—」

『水経注』（原典6世紀、中国最古の地理書）とその諸注を考古学上の諸発掘成果およびランドサット衛星地図と合わせて分析することによって、中国古代の地域社会の構造を再検討する。

[研究実施概要]

- a) 陳橋驛復校『水経注疏』（江蘇古籍出版社刊）をテキストとして、隔週の研究会において、その巻17「渭水」（甘肅省に発し、陝西省咸陽の南、西安(長安)の北を経て黄河に注ぐ）の部分、旧ソ連製('78年)の詳細なランドサット衛星地図と重ね合わせ、諸注及び諸校訂を丁寧に検討しながら読み進めた。
- b) 20世紀以降の中国における渭水流域の諸遺跡の考古学的調査・発掘の報告書を集め、この地域の古代遺跡と『水経注』記載の内容を合わせ検討し、渭水流域の古代の自然・社会的実態により具体的に迫るよう努めた。この成果を「渭水流域古代地図」などの形でまとめることを検討した。

④ 「東アジア都城の考古学的研究」

中国東北地方の東北隅に、713年大唐帝国の册封を受けて渤海郡(王)となって以降、渤海は連年のように朝貢し、また留学生を次々と派遣し、唐の文化の摂取に努めた。しかしながら、渤海は自国の歴史を遺していないため、渤海の政治、経済、社会、歴史、文化などは詳細が不明なままになっている。このような事情の時、戦前に東亜考古学会が渤海国の首都の遺跡で上京龍泉址=東京城の発掘調査した遺跡・遺物を整理して渤海文化の実態を研究することを中心とし、あわせて朝鮮三国、日本などとの関連を視野に、東アジアにおける渤海都城の歴史的位置を検討する。

[研究実施概要]

- a) 「渤海都城の考古学的研究」班と協同して、現在、中国で渤海都城の宮殿区の発掘調査と整備事業が急速にすすめられているので、上京龍泉府址=東京城の現地調査および韓国ソウル大学校博物館の渤海関係資料の調査を実施した。
- b) 韓神大学校博物館学芸研究士の李亨源氏を招聘して「百濟扶餘時代の都城〈城〉

の調査」のテーマによる研究発表会をもったが、中国の南朝の都城との関連が予測された。

- c) 東京城出土遺物の整理作業は、2003年末までに平箱100箱分を洗浄、注記、写真撮影、台帳登録（瓦類614点、建築装飾材1,038点）などを実施した。

(4) 近代中国研究班

①「1910年代における日本の中国認識」

近代日本の政府及び民間機関が作成した中国実態調査資料の検討を通して、日本の同時代中国認識がいかなるものであったかを明らかにすることを基本に、本研究では、比較的研究の手薄な1910年代から20年代初めの時期の山東地方を取り上げる。

[研究実施概要]

- a) 構成メンバー各々がテーマを設定して、個々の研究を進め、3回の研究会において活発な意見を交換した。
- b) 初年度の本年は、関係資料の調査・収集につとめた。東洋文庫のほか、外交史料館、防衛庁防衛研究所図書館、山口大学東亜経済研究所の調査において、青島守備軍民政部鉄道部発行の『調査資料』シリーズのほか、『山東鉄道調査報告』、『青島実業協会月報』など多くの貴重資料の調査と成果を得た。

(5) 東北アジア研究班

①「朝鮮王朝後期戸籍大帳解題の作成」

日本の諸機関に所蔵されている、大帳(台帳)を中心とした朝鮮戸籍関係資料を調査検討する。このことより日本における朝鮮前近代史料の所蔵状況を把握し基礎データを集積するとともに、家族・血縁・人口・身分・婚姻・集落などについて分析を行い、近世から近代初頭にかけての朝鮮の社会状況に関する歴史学的考察を加える。

[研究実施概要]

- a) 戸籍大帳ならびに戸籍関係資料は、韓国にも残存数が少なく、日本各機関の所蔵分は史料上研究上に重要な位置を占めている。今回、一連の資料調査の対象は、京都大学附属図書館・総合博物館、東北大学・学習院大学等の図書館など4地域9機関11施設・大帳331冊を数える。
- b) その研究の成果として、331点の写真にその解題を付して『日本所在朝鮮戸籍関係資料解題』を出版した。

②「清朝満洲語檔案資料の総合的研究」

近年、中国清朝満洲語檔案資料の重要性が注目されてきているが、清朝の基盤組織である八旗のひとつ檔紅旗満洲の衙門(事務所)の文書群である、東洋文庫所蔵の「檔紅旗檔満洲都統衙門檔案」の研究を継続する。同檔案には、衙門が設けられた雍正元年(1723)から民国十一年(1922)にいたる、約2,240件の文書が残されている。その文書群の「概要」については、すでにToyo Bunko Research Library No.1(2001年刊)に紹介したが、檔案のもつ歴史的意味、個別檔案の内容等について「研究編」を編み英文での刊行を期す。

[研究実施概要]

- a) 東洋文庫所蔵檔紅旗檔満洲語檔案の「研究編」刊行の作業をすすめた。
- b) 「清入関前内国史院檔満文檔案」(北京の中国第一歴史檔案館所蔵)の『内国史院檔、天聰七年』(ローマ字転写・和訳・原文写真収載)の出版につづき、「天聰五年(1631)檔」および「天聰八年(1634)檔」の講読研究会を継続した。

(6) 日本研究班

① 「岩崎文庫貴重書の書誌的研究」

東洋文庫所蔵の岩崎文庫には日本の文化・文学・言語を研究する上で重要な典籍が数多く所蔵されているが、その書誌的調査は未だ十分になされていない。本研究はこれを組織的、総合的に行い、研究の基盤を整備するとともに、これを広く社会に公表し、研究の進展に資することを期す。

[研究実施概要]

- a) 特に本年度は、すでに一応の調査が終了しその成果が公刊されている古写本、古刊本につき遺漏が見出されたので、これを調査研究し、『岩崎文庫貴重書書誌解題Ⅳ』として出版した。ここで、その一端を紹介するならば、『具舎論』等11種がいわゆる神護寺経であったこと、悉曇関係の書物の多くが高山寺伝来の由緒正しい資料であったこと、『古文孝経』の写本に角筆が、それも線描画を描いたものが見出されたこと等、貴重な発見をすることができた。
- b) 岩崎文庫本の中、質・量ともにすぐれている江戸期の近世写本・刊本の書誌的研究を継続した。

<内陸アジア研究部門>

(7) 中央アジア研究班

① 「St. ペテルブルグ文書研究」

東洋文庫所蔵のマイクロフィルム（ロシア科学アカデミーSt. ペテルブルグ東洋学研究所所蔵文書）のうち、5-6世紀から15世紀頃に活躍したトルコ系・イラン系民族のウイグル語・ソグド語・コータン語・マニ文字文献（約14,000駒）およびモンゴル語文献（約12,000駒）を整理分類し、まず、その総合解題カタログを作成する。それと並行して文献学的・歴史学的・言語学的研究をすすめる。オアシス社会と遊牧社会との関連を含めて、中央アジア諸民族の残した文書により、その当時の歴史文化的背景を明らかにする。

[研究実施概要]

- a) 各言語の分担者による共同文書研究資料として使用するため、断片の文書を含めて、その複製を作成し分類整理をすすめた。
- b) 整理・分析の課程で、St. ペテルブルグ所蔵文書の再確認作業のため現地調査および海外の他機関所蔵のウイグル等文書の調査を実施した。

② 「近現代中央アジアにおける民族の創成」

1991年ソ連解体と中央アジア5ヶ国の独立以来、現今のアフガニスタン情勢まで連動して、中央アジア諸国ではあらたな「民族意識」がさまざまな形で姿を表し、周辺地域（たとえば新疆ウイグル自治区）にも影響している。この現状を近年における東洋文庫の収集資料を活用して主に歴史学の方法によって検証し、「国民国家」の枠組みを問いなおしつつ、「民族」創成の多様な論理と過程を明らかにする。この地域に「民族意識」の原形が生まれたのは、19世紀末のことであり、これを創出したムスリム知識人たちはおもに新聞・雑誌などの新しいメディアを活用しながら民族的なアイデンティティの形成にあたった。したがって、19世紀末から20世紀初頭に刊行された新聞・雑誌は、重要な史料であり、これをもとに実証的な研究を進める。

[研究実施概要]

- a) 近代中央アジア新聞・雑誌コレクションの整理：初年度は、今後の研究の基礎とな

るこれらのマイクロフィルム資料について各号の確認と整理を行い、資料の利用と保存のためにCD-ROM化を行った。対象とした新聞・雑誌は下記の通りである。

Terjuman(Bahchesaray,1906-1917), Turkistan Viloyatining Gazeti(Tashkent, 1870-1917), Shura(Orenburg,1908-1917),Vaqt(Orenburg,1908-1915), *Āyaina* (Samarkand,1913-1915), *Qizil bayraq*(Tshkent,1921), Turkistan(Tashkent, 1923-1924), Rahbar-i Dānish(Samarkand, 1928-1930).

- b) 現地資料・関連研究図書の収集：ウズベキスタン、タタールスタンなどで刊行されている最新の研究文献を調査し、さらに、1980年代後半のペレストロイカ期から、中央アジア近現代史に関する研究動向の調査を行った。

③ 「敦煌・トルファン出土漢文文書の文献学的研究」

これまで、中国の中央で編纂された漢語史料を中心に進められてきた中国の内地及び内陸アジア諸地域の諸民族の歴史を現地で作成された生の漢文文書を分析研究することによって、諸民族の歴史の実態を明かにすることにある。このために、本研究は、3世紀から13世紀に至る時代に作成された漢文文書を記述内容によって分類し、それぞれの文書がどのような特質をもっているかを、書誌学的、あるいは古文書学的に研究することによって、諸種文書の外形的な特徴、即ち、様式を究明する。

[研究実施概要]

- a) ロシアのサンクトペテルブルグ東洋学研究所所蔵のマイクロフィルム資料に含まれる非仏教文献の調査・分類を行った。
- b) 上記に関連して、京都大学羽田記念館所蔵「西域出土文献写真」を調査した。
- c) 「内陸アジア出土古文書研究会」を開催継続して、標記課題のもと各分担者・研究協力者による個別研究報告を行った。

(8) チベット研究班

① 「チベット蔵外文献の書誌的研究」

これまで永年にわたってチベット人研究協力者の協力のもとに「チベット語文語辞典の編纂」および「チベット人との協同によるチベットの歴史・言語・宗教・社会の総合的研究」の研究業績の蓄積の上に立って、さらに一層の研究の充実を図るべく、「チベット蔵外文献の調査研究」を実施する。

[研究実施概要]

- a) 東洋文庫所蔵チベット撰述蔵外文献解題目録の編纂カードを点検して、目録データベースの作成を継続した。
- b) 東洋文庫所蔵チベット蔵外文献中の河口慧海師将来文献（蔵外No. 406 ; No. 416）および注釈のウメ文字体写本の校訂と語彙収集およびデータベース化を開始した。
- c) チベットの伝統的仏教学の基礎研究書として、従来より研究を進めてきたトゥカン『宗義書』（既刊6刊）の現存諸版の全体的再点検を行い、テキスト校訂と語彙収集およびデータベース化を進めた。
- d) 『チベット語文語辞典』編纂の基礎資料として、チベット仏教の基本的文献についてのデータベース作成の作業を継続した。

<インド・東南アジア研究部門>

(9) インド研究班

① 「南アジアにおける支配権力の政治と文化」

南アジア史における支配権力は、概略、古代のヒンドゥー政権、中世のムスリム政権、近代の植民地政権、現代の民主政権へと展開した。この中、わが国において最も遅れ

ているムスリム政権のムガル時代を中心に、南アジア史関係のペルシア語、ウルドゥー語史料の蒐集につとめ、インド=ムスリム政権の権力構造とその支配下における社会、経済、文化の実態を解明する。

[研究実施概要]

- a) 研究分担者の個別研究を進める過程で、ムガル帝国時代のムスリム関係史料、ウルドゥー語史料、ヒンディ文学関係史料の調査をすすめる、蒐集計画を検討して、データ入力に備えた。
- b) インド=ムスリム研究者を総合した研究会の組織化につとめた。

(10) 東南アジア研究班

① 「東南アジア諸国の伝統と近代化をめぐる諸問題」

東南アジアの港市には、東西世界の商人が逗留するとともに、中国やインド、西アジアからの移住者も流入した。そこで、東南アジアの前近代から近代にかけてこうした移住者達が、出身地といかなるネットワークを形成し、また近代東南アジア社会の構築にいかに関わったかを、港市を拠点に考察する。

[研究実施概要]

- a) 東南アジア関係マイクロフィルム資料の分類整理とデータ入力を進めた。
- b) 東南アジアの王統記の他者表象をめぐる記述の一覧表作成につとめた。

<西アジア研究部門>

(11) 西アジア研究班

① 「イスラーム世界における契約文書の研究」

個人間の契約（売買契約など）にとどまらず、広く君臣契約や行政契約（徴税請負など）を含め、現存する文書や史料をもとに、イスラーム世界における契約を保証するシステムと契約によって結ばれる社会関係の全体像を検討する。

[研究実施概要]

- a) 平成17年度出版予定の“Muqata Defteri (Tax-farm Register) of Damascus Province in the Seventeenth Century”（「17世紀シリアのムカーター台帳の校訂と研究」）の校訂作業と文書史料収載許可を得るため、ダマスカス歴史文書館等に出張するなど、編集・出版作業を進めた。
- b) 他機関の協同プロジェクト「イスラーム写本・文書の総合的研究」などと共同研究会を催し、イスラーム法廷文書にかかわる研究者のネットワークを構築した。

C. 各種研究会・講演会の開催

数量\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
研究会回数	18	21	14	19	8	16
参加人数	158	418	153	197	82	167

10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
17	16	12	11	10	23	185回
362	213	525	125	156	378	2,661人

II. 資料収集・整理

超域プロジェクト研究・アジア諸地域歴史・文化の基礎研究ともに、図書委員会の協議によりアジアの現状および歴史に関する一次資料（写本、文書史料、刊本等）、専門研究書、定期刊行物を収集し、東洋文庫所蔵資料の補充に努める。また、東洋文庫所蔵図書の書誌データの公開は、現在総数約350,000件のうち昨年度（平成14年度）までに211,000件、約60%の遡及入力を完了した。平成15年度は昨年度に引き続き、漢籍、和書などの入力を進めた。

A. 資料購入

区 分	和漢書	洋 書	その他
超域・現代中国研究	734冊	27冊	0
超域・現代イスラーム研究	4冊	1,644冊	0
東アジア研究	1,327冊	47冊	0
内陸アジア研究	33冊	276冊	CDR 21枚
インド・東南アジア研究	0	715冊	0
西アジア研究	0	870冊	0
合 計	2,098冊	3,579冊	CDR 21枚

B. 資料交換

区 分	受 贈			寄 贈		
	和漢書	洋 書	計	国 内	国 外	計
単 行 本	1,674冊	1,393冊	3,067冊	892冊	456冊	1,348冊
定期刊行物	3,473冊	1,497冊	4,970冊	2,520冊	1,722冊	4,242冊
計	5,147冊	2,890冊	8,037冊	3,412冊	2,178冊	5,590冊

C. 図書・資料データ入力数

平成15年4月1日～同16年3月31日までの期間に、新収及び蔵書遡及のDB入力数は、下記の通りである。

洋 書	14,116	トルコ語図書	496
和漢書	12,715	中文図書	2,393
キリル語図書	1,314	南アジア諸語図書	749
モンゴル語図書	799	雑誌（和漢洋ほか）	4,201
ペルシア語図書	395		
アラビア語図書	960	合計	38,138件

D. 資料保存整理

(1) 補修再製本・製本

① 区 分	単 行 本		簡易製本
	和 装	洋 装	(和・洋装)
数 量	裏打 4,065枚 90冊	補修 2,340枚 79冊	52冊

②	区 分	定期刊行物	製帙・保存箱	地図類	その他	整理保全
	数 量	1,569冊	194点	20枚	36枚	279点

(2) 撮影・焼付

区 分	撮影齣数	フィルム反転	電子複写枚数	整理作業
数 量	41,175枚	75リール	0	7件

Ⅲ. 研究資料出版

A. 定期出版物刊行

- ・『東洋文庫和文紀要』（東洋学報） 第85巻第1～4号 A5判 4冊 (刊行済)
- ・『東洋文庫欧文紀要』（*Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*)
No. 61 B5判 1冊 (刊行済)
- ・『近代中国研究彙報』第26号 A5判 1冊 (刊行済)
- ・『東洋文庫書報』第35号 A5判 1冊 (刊行済)
- ・『超域アジア研究報告』第1号 B5判 1冊 (刊行済)

B. 論叢等出版

- ・“*Political History of Modern China*”
(東洋文庫欧文論叢 Toyo Bunko Research Library 4) A5判 1冊 (刊行済)
- ・『宋史食貨志訳註(五)』（東洋文庫論叢第63） A5判 1冊 (刊行済)
- ・『岩崎文庫貴重書書誌解題Ⅳ』 B5判 1冊 (刊行済)
- ・『朝鮮王朝戸籍大帳解題』 B5判 1冊 (刊行済)

Ⅳ. 普及活動

A. 研究情報普及

(1) 東洋学講座

(春 期) 共通テーマ：中国地方志・族譜の伝統

[東洋文庫創立80周年記念講演会 (3)]

第473回 平成15年5月13日 (火)

「地方志の編纂と地域社会」

慶應義塾大学教授

山本英史氏

第474回 平成15年5月20日 (火)

「珠江デルタから考える中国の地域史」

大阪大学教授

片山剛氏

第475回 平成15年5月27日 (火)

「中国近世譜と宗族の実像」

大阪市立大学教授

井上徹氏

(秋 期) 共通テーマ：現地史料から見るイスラーム世界—アラブ・ペルシア・トルコ—
[東洋文庫創立80周年記念講演会 (4)]

第476回 平成15年10月14日 (火)

「アラブ—都市に生きる人びと—」 東洋文庫研究部長 佐藤次高氏
早稲田大学教授
東洋文庫研究員
お茶の水女子大学教授 三浦徹氏

第477回 平成15年10月21日 (火)

「ペルシア—征服者と町の顔役—」 東洋文庫研究員
東京外国語大学教授 八尾師誠氏
東洋文庫研究員
京都大学教授 杉山正明氏

第478回 平成15年10月28日 (火)

「トルコ—イスタンブールの町づくり—」 東洋文庫研究員
明治大学教授 永田雄三氏
東洋文庫研究員
東京外国語大学助教授 林佳世子氏

(2) 特別講演会

第1回 平成15年7月28日 (月)

“Rural Society and Chinese Emigration” (農村社会と中国人の移住)
Prof., Harvard University Philip A. Kuhn 氏

第2回 平成15年9月26日 (金)

「中国大陸の遼宋金史研究の概況」中国社会科学院歴史研究所研究員 王曾瑜氏

第3回 平成15年11月20日 (木)

「周原遺跡の発掘状況」北京大学考古文博院副教授 徐天進氏

第4回 平成15年11月20日 (木)

「二里头文化と夏王朝」中国社会科学院考古研究所研究員 許宏氏

第5回 平成15年12月2日 (火)

「ウズベキスタン共和国中央古文書館に所蔵される新出の東洋諸語古文書史料について」
ウズベキスタン共和国科学アカデミー東洋学研究所研究員
ヌールヤグディ・トショフ氏

第6回 平成15年12月2日 (火)

「ウズベキスタン共和国ヒヴァ市イチャン・カラ博物館の古文書フォンドについて」
ウズベキスタン共和国イチャン・カラ都市博物館上級研究員
カミルジャーン・ホダイベルガノフ氏

第7回 平成16年2月13日(金)
「近代エジプト議会制度史 —1940年代および50年代初頭を中心にして—」
エジプト・アラブ共和国議会担当省副大臣 アッザ・ワフビー 氏

第8回 平成16年3月4日(木)
「紅夷大砲と大清帝国の創建」
(台湾)国立清華大学人文社会学院院長 黄 一 農 氏

第9回 平成16年3月5日(金)
「百済・扶餘時代の都城の調査」
(韓国)韓神大学校博物館学芸研究士 李 亨 源 氏

第10回 平成16年3月11日(木)
「歌舞伎とオペラのヒロインの悲運 —籠釣瓶と椿姫—」
ドイツ連邦ゲッチンゲン大学教授 クラウス M. フィシャー 氏

第11回 平成16年3月24日(水)
「Arabic Autobiographical Tradition」
Prof., University of California, Santa Barbara Dwight F. Reynolds 氏

第12回 平成16年3月26日(金)
「宋代基層社会転變的觀察」 台湾中央研究院歴史語言研究所教授 黄 寬 重 氏

(3) 東洋文庫創立80周年記念特別講演会

日 時：平成15年12月8日(月)
講 師：浅野秀剛・千葉市美術館学芸課長
テーマ：「東洋文庫にしかない絵本と浮世絵20選」

(4) 江戸開府400年記念展示会「東洋文庫名品展」の開催

会 期：平成15年12月23日～平成16年1月12日
場 所：丸の内ビルディング 7F 丸ビルホール
展示品：喜多川歌磨「錦織歌磨形新模様」など80点

(5) 研 究 会 (東洋文庫談話会)

日 時：平成16年2月27日(金)
「徽州文書からみた「典」「當」「借」」東京外国語大学教授 白井 佐知子 氏
文部科学省内地研究員

B. データベース公開

平成15年4月1日～平成16年3月31日までの期間に、東洋文庫の図書・資料のデータに対するオンライン検索アクセス件数は、概略、以下の通りです。

区分/03年4月～04年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
漢籍資料	504	506	619	633	656	728	809	624	1,344	727	593	760
中文・日文・欧文・露文新収図書	192	181	159	198	210	356	252	132	348	238	234	254
中文図書（近中）	260	255	273	275	270	329	236	253	388	250	363	299
日文図書（近中）	260	265	272	254	276	309	312	326	590	264	292	672
近代日本関係文献目録	275	236	178	206	239	437	377	184	398	161	230	215
アラビア語図書	381	360	320	369	337	366	751	427	648	352	402	432
ペルシア語図書	381	360	320	369	337	410	751	418	644	351	402	432
チベット語文献（河口・蔵外）	39	52	83	85	100	311	239	237	218	143	187	230
中央アジア研究文献目録	0	386	341	429	356	346	443	318	580	355	199	367
中東イスラム研究文献目録	0	412	374	510	397	407	855	579	918	348	353	334
そのほか	1,626	1,678	1,844	2,067	1,009	2,550	3,437	1,954	4,174	2,485	3,316	3,501
合計	3,918	4,691	4,783	5,395	5,483	6,549	8,462	5,452	10,250	5,674	6,571	7,496

V. 学術情報提供

東洋文庫は、日本における東洋学の共同利用の研究機関であると同時に、国内外の研究者並びに研究機関との連絡に当たって今日に至っている。従って、学術情報の提供に関する下記の諸事業は東洋文庫として最も力を入れているところである。

(1) 図書・資料の閲覧（協力）サービス

数量 / 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
閲覧者人数	203	255	222	314	324	282
閲覧図書数	2,260	2,953	2,891	5,220	5,440	4,997
レファレンス数	55	69	60	84	87	76

10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
247	215	267	214	228	274	3,045人
3,617	4,085	3,980	4,056	4,137	4,225	47,861冊
67	58	72	58	61	74	821件

(2) 研究資料複写サービス

A) マイクロフィルム・紙焼写真

区 分	申込件数
数 量	563件

B) 電子複写

区 分	申込件数	焼付枚数
数 量	888件	50,148枚

(3) 研究資料の覆刻・増刷の刊行サービス

東洋学報 第84巻4号、 第85巻1、2、3号	各370部
内国史院档 一天聰七年一	100部
Research Trends in Modern Central Eurasian Studies (TBRL 3)	80部
近代中国研究彙報 第25号	50部
東洋文庫書報 第34号等2種	各50部

(4) 参考情報提供のサービス

『東洋文庫年報』平成14年度版 A5判 1冊 (刊行済)

(5) 広報普及

東洋文庫ホームページ(和文・英文)を全面刷新した。

また、東洋文庫図書資料データベース検索ページ(書誌データ)アクセス数を含めて、平成15年度1ヶ年間のHP全体のアクセス数は、以下の通りである。

数量\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
アクセス数	14,563	14,839	14,884	16,700	14,915	18,264

10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
20,104	17,772	42,513	24,096	18,328	20,457	237,435件

(6) 研究者の交流および便宜供与のサービス

A) 長期受入

1) 国内研究者の受入

白井 佐知子(東京外国語大学外国語学部教授)

「徽州文書および徽州商人の研究」(平成15年5月1日～同16年2月27日・10ヶ月間)

2) 平成15年度日本学術振興会特別研究員P.D.の受入

佐藤 健太郎(東京大学大学院P.D.)

「11～13世紀アンダルス(イスラーム・スペイン)における暦と祭」

(平成14年度採用、同15・16年度3ヶ年間)

安藤 潤一郎 (東京大学大学院P.D.)

「近代中国におけるイスラム系少数民族の研究 ―主として国際関係の視座から」
(平成14年度採用、同15・16年度3ヶ年間)

内田 直文 (九州大学大学院P.D.)

「清代中国の文書行政及び皇帝側近集団から見た清朝国家の支配構造の分析」
(平成15年度採用、同16・17年度3ヶ年間)

高村 武幸 (明治大学大学院P.D.)

「秦漢帝国支配下の地域社会 ―紀元前3世紀末～紀元3世紀初頭の社会生活史の視点から」
(平成15年度採用、同16・17年度3ヶ年間)

前田 弘毅 (東京大学大学院P.D.)

「イスラーム世界における奴隷エリートの研究 ―マイノリティー・ネットワークの視座から」
(平成15年度採用、同16・17年度3ヶ年間)

3) 外国人研究者の受入

Claus M. FISCHER (ドイツ連邦ゲッチンゲン大学教授)

「東洋文庫 (岩崎家コレクション) 所蔵日本近世演劇史資料の調査研究」
(平成15年4月以降59日間・日本学術振興会招聘)

B) 外国人研究者への便宜供与

Bhutan

Mynak R. Tulku Director, National Library, Thimphu

China (People's Republic)

王 會 瑜 中国社会科学院歴史研究所研究員 (以下、31名)

China (Taiwan)

金 培 懿 国立雲林科技大学漢学研究所助教授 (以下、9名)

Egypt

Azza Wahby Vice Minister of Parliament Affairs of the Arab Republic of Egypt

France

Jean-Michel Mouton Professeur d'histoire et de civilisation musulmanes médiévales,
Université Lumière

Germany

Claus M. Fischer Prof., Universität Göttingen Ostasiatisches Seminar Japanologie

India	
Achok Rinpoche	Director, Library of Tibetan Works, Dharamsala (以下、4名)
Indonesia	
UlilA. Abdalla	Associate Professor, Institute for Research and Human Resource Development of Nahdlatul Ulama, Jakarta
Iran	
Mohsen Kadivar	Professor, Tarbiat Modarres University, Tehran
Korea	
白斗鉉	慶北大学校人文大学歴史系教授 (以下、3名)
Mongol	
Alimaa Dari	モンゴル文化教育大学教授
Nepal	
Hubert Durt	Chairman, Steering Committee, Lumbini International Research Institute, International College for Advanced Buddhist Studies
Netherlands	
Leonard Blussé	Professor, Leiden University
Russia	
Evgenij I. Kychanov	Former Director, Institute of Oriental Studies of Russian Academy of Sciences (St. Petersburg) (以下、3名)
Singapore	
Wang Gungwu	Director, National University of Singapore
U. K.	
Mohamed A. mahmoud	Professor., Tufts University, Birmingham
U.S.A	
Di Wang	Assistant Prof., History Dept., Texas A&M University (以下、6名)
Uzbekistan	
Nuryagdi Toshov	Research Fellow, Institute of Oriental Studies, Academy of Sciences (以下、2名)
Vietnam	
Le Thi Lien	Researcher M.A., Vietnam Institute of Archaeology (以下、4名)

平成15年度財団法人東洋文庫特別事業報告書

財団法人 東洋文庫
理事長 斯波義信

平成16年3月31日現在までに行なわれた財団法人東洋文庫特別事業の報告は下記の通りです。

事業内容

I. 特別調査研究並びに研究成果の編集等

(1) 日本学術振興会科学研究費補助金並びにその他助成金による事業

A) 平成15年度科学研究費補助金による事業

1) 研究成果公開促進費（データベース等）の対象事業

[名称]「東洋学総合情報システム」 [東洋文庫電算化委員会委員長：斯波義信]
(平成6年度以降採用、15年度採用)

[分野]「東洋学全般」

[目的・内容]；

本プロジェクトは、東洋学に関する世界有数の図書館・研究所である東洋文庫における所蔵文献の各種目録情報をデータベース化し、インターネットなどを通じて利用者が自由に検索できるようにすることを目的としている。データベース構築に当たっては、できる限りアジア諸言語のオリジナルスクリプトで入力・表示・検索・ソートを行うことにより、研究者に利用しやすいような環境をつくることに努めている。資料は毎年、寄贈本の受け入れなどにより、急速に増加しつつあるが、現在総数約350,000件のうち昨年度（平成14年度）までに211,000件、約60%の遡及入力を完了した。本年度は昨年度に引き続き、漢籍約10,000件、和書20,000件、計30,000件の入力を進める。

OPAC公開については、現在、各種データ・ベース20種（約175,000件）をホーム・ページ上に公開している。昨年度（平成14年度）には、近代中国文献、Korea関係洋書、榎文庫洋書などを中心にデータ・ベース7種（約34,600件）を公開した。本年度は、中国語雑誌、和書貴重書、東南アジア関係洋書などを中心に、一層のOPAC公開を推進する。また、特殊語文献については、モンゴル語を中心に公開に向けて努力する。

[事業実施概要]；

今年度の書誌情報は、従来のデータのアップのほかに、特に中国逐次刊行物、近代中国関係の欧文・中文図書、東南アジア関係欧文図書、韓国・朝鮮語資料のデータベース（レコード数38,143件）を完成させ、順次公開した。

2) 基盤研究（B）の対象事業

[課題]「宋代の経済政策及び関連する諸政策の総合的研究」 [研究代表者：斯波義信]
(平成14年度採用、3ヶ年間・2年度目)

[目的]；

本研究は、経済政策及びその立案の背後にある諸々の経済制度、官僚支配等に関する用語の調査・研究を通して、宋代経済政策の全体像を明らかにすることを目的とする。

具体的には、一つは従来の『宋史食貨志』訳註作業を継続させ、残る部分即ち専売・商業税・

金融政策・貿易管理等の訳註を完成させること、一つはやはり従来推進してきた『宋会要輯稿』食貨の語彙調査を、地名及び一般語彙に及ぼすこと、一つは『朝野類要』訳註作業を推進させること、以上の3つである。3つの作業は語彙調査上、相互に関連しており、同時に推し進めなければならない。本年度は、関連する語彙の調査に重点を置き、一部の訳註稿についてはその完成出版を目指すこととしたい。

[研究実施概要]；

- (1) 『宋史食貨志訳註（巻五）塩・茶』（A5版768頁）を刊行した。
- (2) 『宋史食貨志 下七～八（酒、堂治、礬、香、商税、市易、均輸、互市舶法）』の訳註稿の検討会を東洋文庫、電通生協会館、無窮会図書館などにおいて開催した。
- (3) 『宋会要輯稿食貨語彙索引（地名篇）』（約400頁、B5版）の校正をほぼ完成させ、出版の準備を終えた。
- (4) 『宋会要輯稿食貨語彙索引（一般語彙篇）』の原稿をほぼ完成させた。
- (5) 『朝野類要』の明代版本の調査を上海図書館、南京図書館にて行った。
- (6) 『朝野類要』の書誌学的研究を行った。
- (7) 『朝野類要訳註稿』の検討会を東洋文庫、学習院大学東洋文化研究所、早稲田大学、青山学院大学などにおいて開催した。

3) 基盤研究（B）の対象事業

[課 題] 「第一次大戦期日本の山東経営をめぐる総合的研究」 [研究代表者：本庄比佐子]
(平成15年度採択、4ヶ年間・初年度)

[目 的]；

第一次世界大戦期に日本はドイツの青島要塞を攻略し、山東半島を拠点として中国大陸に対する利権拡張政策を積極的に展開した。そしてこの時期以降、日本は青島、山東半島を拠点に、それまで主に東北地域と台湾に限られていた利権を、中国の関内地域に拡大していく。本研究では、この時期、1910年代後半から1920年代初めにかけて、青島守備軍、満鉄、農商務省などの国家機構を動員して進められた山東地域など中国の実態調査の全貌を明らかにするとともに、それらの調査資料を参照しつつ、青島・山東地域を中心に、当時の中国の政治・経済・社会に関する総合的な考察を試みる。

[研究実施概要]；

- (1) 初年度にあたる平成15年度は、関係史資料の調査・収集に力を注いだ。
 - ① 国内では、東洋文庫の所蔵状況を確認したうえで、外務省外交史料館・防衛庁防衛研究所図書館・山口大学東亜経済研究所でメンバーの合同の調査を行った。その結果、『青島守備軍旬報』（1914-20年）、『軍軍令告示集』（1914-20年）を見つけることができた。また、個々の調査結果も併せて、青島守備軍民政部鉄道部がシリーズとして作成した『調査資料』について、31点のうち22点の所在が明らかになり、外交史料館のファイルからは『山東鉄道調査報告』も見出した。これらの調査資料は、青島と山東鉄道及びその沿線地域を勢力範囲として中国大陸進出を図る日本の企図を具体的に分析するうえで重要な資料である。さらに、占領下の青島に進出した日本人の経済活動を反映する『青島実業協会月報』（2-45号）について、研究協力者の協力を得て記事目録を作成した。
 - ② 平成16年度に予定している中国での調査に向けて、青島と済南に研究分担者2名を派遣して予備調査を行った。青島市社会科学院・山東省社会科学院歴史所を訪問して資料について教示を得たほか、今後の研究交流の必要も確認された。また、档案馆などでも資料の所蔵状況を調査した。
- (2) 1910-20年代初めの山東地方史、山東問題をめぐる日中関係などに関する先行研究を参考にしつつ、具体的には、日本軍の占領体制、日本の軍事行動と山東の民衆、青島守備軍鉄道部

の調査活動、ドイツの青島経営、山東省の農村社会の構造変動、山東省の穀物事情、葉煙草を中心とする農産物事情、大連における山東移民、山東鉄道の延長線問題、山東鉄道返還後の日本人雇用問題などのテーマを設けて(1)①の資料を中心に検討を始めた。

4) 基盤研究 (C) の対象事業

[課題]「渤海都城の考古学的研究」 [研究代表者：田村晃一]

(平成14年度追加採択、2ヶ年間・最終年度)

[目的]；

渤海の都城については、昭和8・9年に東亜考古学会が実施した東京城（上京龍泉府）の調査（調査主任は原田淑人東京帝国大学教授）があり、昭和13年度には半拉城(八連城=東京龍原府)、西古城(中京顕徳府)が調査された。戦後になると、1961年に中国・朝鮮合同調査隊が東京城を再調査し、その後も東京城については、中国側によって断続的に調査されている。またその他の都城についても、ごく最近、調査をおこなったという。

本研究は、現在、東京大学に所蔵されている東京城出土遺物の整理調査を進めることによって、渤海都城の実態を明らかにすると共に、従来の渤海都城の調査結果を総括し、中国・朝鮮三国や高麗、日本の平城京や平安京などの都城に関する考古学的な調査結果と比較検討し、渤海の都城が東アジアの古代・中世における都城制度のなかでどのような位置を占めているかという点を明らかにすることを目的としている。

[研究実施概要]；

東京城（渤海上京龍泉府）出土遺物の整理は、平成15年末までに平箱60箱分の作業を完了した。その内訳は、丸瓦101、平瓦124、軒丸瓦120、軒平瓦39、道具瓦2（瓦類のうちで押字あるもの82）、鴟尾71、獸頭301、方褙28、長方褙17、根卷89、壁材122、土器49、塑像片などの土製品110、鉄釘など33、その他、総計1,208点となっている。また平成16年1～3月に平箱20箱分の整理を実施した。詳細については後日まとめて報告する。

研究発表については、当初、5月に中国黒龍江省考古文物研究所の朱国沈氏を招聘することとして運動していたが、サーズ流行のため延期となり、改めて12月に招聘しなおすこととした。しかし直前になって、招聘不可能ということになって、計画を練直し、16年2月に韓国韓神大学校博物館学芸研究士李亨源を招き、「百濟扶餘時代の都城調査の現況」について発表してもらうこととして実施した。

現地調査については、サーズ騒ぎの納まった平成15年10月12日から19日までの7泊8日の日程で中国黒龍江省寧安市にある東京城の地表調査を実施した。参加者は日本から井上和人、早乙女 雅博、小嶋芳孝、田村晃一の4名で、北京から馬一紅氏が参加した。この踏査には黒龍江省文化庁の蓋培新氏も同行した。幸いにして好天に恵まれ、城内の各地を見聞することができたが、何分にも広大な遺跡であるので、未踏査部分も多く残し、次回以後の課題とした。

B) その他の平成15年度研究助成金による事業

1) 三菱財団人文科学研究助成の対象事業

① [課題]「中国古代地域史研究 - 『水経注』の分析から」

[代表研究者：堀 敏一] (平成14・15・16年度3ヶ年間)

[目的]；

近年、科学的な調査と考古学的な発掘および夥しい出土文物によって、中国古代史研究は更めて、中原地域とその周辺の各地域を対象とする地域史を中心に、具体的な史料の再構築の必要性がさげばれている。

『水経注』は、中国最古の地理書（原典6世紀）として、中国の河川を中心として、各地域の地勢及び都邑・遺址・遺物に関して、調査を行ったものである。さらに注目すべきは各地の人物や歴史事実の記録、及び伝承に至るまで丁寧な記録を残している。これは古代地域史の資料の宝庫である。

中国では、宋・明以来、それまでに佚われた部分を含めて、この史料の正確な復元と解注が行われ、特に清朝考証学者及び二十世紀以後の歴史学者がその研究に多大な努力を行って来た。我々はその基礎に立って中国古代史研究の立場から『水経注』の理解と評価とを再検証して、現代につながる新たな中国古代の地域史の具体像を明らかにすることを目的とする。

[研究実施概要]；

現在、渭水水系に関する部分、『水経注疏』巻十七渭水上を検証している。渭水水系は周、秦、漢、前秦、北周、隋、唐といった王朝の都城が置かれた地であり、中国古代史の核となる地域である。本研究では、まず『水経注図』（楊守敬篇）を基礎資料として参照しつつ『水経注疏』の輪読を進めている（毎週木曜日開催）が、新しい中国の地図はもちろんのこと、ロシアで作成された詳細なランドサット衛星地図（1978 USSR 1/100000）やアメリカの航空地図（1995 USA 1/500000）を活用することによって、より丁寧に当該地域の地形や地勢を検討することが可能になった。特に、史料の検証過程でどのように注釈を加えていくかが課題とされるが、本研究プロジェクトでは、『水経注疏』の釈文中に考古資料、歴史地理、民族、自然地理、古跡などの項目を設けて注釈を加えながら作業を進めている。

なお、現在までの作業の中で得られた主な成果を以下に記述する。

- (1) 甘肅省、陝西省、寧夏回族自治区の境域にある六盤山一帯の歴史的な重要性が明らかになった。『水経注』にはこの地域における漢、魏晉南北朝期の戦乱に関する記事を数多く載せているが、それは渭水が溪谷を通過することから、溪谷が交通の障害になり、その迂回ルートとして瓦亭水など六盤山水系が活用されたことが理解された。またそのルートは南に武都を経て四川に繋がっている。特に、後漢初期動向や南北朝期の鵝族に関する情報などが明らかになり、現在はほとんど活用されていない六盤山を東西南北に越えるルートが古代における民族の移動、抗争の場であったことが明確にされた。この点は今後中国古代史を再検証する上に不可欠な情報となるであろう。
- (2) 秦初期の遺跡が数多く展開する天水周辺の歴史地理的な状況が明らかになった。特に、秦水上流の温泉の存在と元来放牧を業としていた秦の発祥地との関係という興味深い問題も導き出された。また、放馬灘という秦の放牧地の自然環境も衛星地図から捉えられ、馬王堆漢墓から発見された古地図との地形比較や比定議論の展開も可能になった。
- (3) 縣城や諸亭の立地状況が把握でき、それによって従来不明確であった甘肅省東部の行政区画の変遷が辿れるようになった。また、縣城遺構など今後の考古学調査に期すべき課題も導き出した。この点は古代行政地理に関する重要な成果といえる。
- (4) 平成16(2004)年2月下旬～3月中旬、研究分担者の塩沢裕仁・太田幸男らを甘肅省・陝西省の渭水上流域の実地調査に派遣し、甘肅・陝西両省の諸考古学団体の協力を得て主に遺跡の調査を実施した。さらに陝西師範大学の専門研究者と陝西省の歴史地理学上の成果を撮取り、宝鶏市周辺の遺跡等を実地踏査した。
- (5) 『水経注』のあまりにも精緻な記載を再確認するとともに、編者或道元と同時代史料というべき天水麦積山などの仏教遺跡の記載が見られず、『水経注』の編集過程と方針を考えなくてはならないという次の課題が明確になった。

平成15年度財団法人東洋文庫特定事業報告書

財団法人 東洋文庫
理事長 斯波義信

平成16年3月31日現在までに行なわれた財団法人東洋文庫特定事業報告の概要は下記の通りです。

事業内容

[事業名] アジア関係資料データベース化プロジェクト [プロジェクト代表：斯波義信]

[期間] 平成13年度～同17年度(5ヶ年計画)

当初予定された事業は完了したので、新たに東南アジア関係の資料のデータベース化事業を推進する。

[目的] 本プロジェクトは生化学工業株式会社社長水谷当称氏の寄付金5千万円を以て、東南アジア研究を促進するためであったが、当初予定の事業を終えたので、今後は広く東南アジアを中心にアジア関係資料の公開も含め、データベース化事業を推進することを目的とする。

[事業] アジアを中心とした資料の整理公開のためのデータベース化事業を進めた。